

事後報告書

東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 生命環境科学系
岡ノ谷研究室修士課程2年 芝慎太郎

2016年11月に米国カリフォルニア州で開催された Birdsong 6 と Neuroscience 2016 という学会に出席した。

Birdsong 6 は、後述の Neuroscience に先駆けて毎年開催されている大きめの研究会のような学会である。神経科学の一分野に Songbird（鳴禽類）の研究があり、この研究者らが集まって最新の研究発表（口頭とポスター）をおこなった。会場は UC San Diego で、講堂のような場所が用意されていた。こちらは出席者が全員ある程度知識を共有しているので、かなり白熱した議論にもなった。自分はここでは発表していないが、大変勉強になった。

Neuroscience 2016 は Society for Neuroscience (SfN) が母体となっている年次学会で、神経科学系の学会では世界最大である。今年の参加登録者は 2 万 9 千人以上であり、こちらは San Diego の Convention Center で開催された。

私は口頭発表をおこなった。会場は最大 200 人程度入りそうな中規模のサイズのもので、朝一番だったこともあり 40 人程度の聴衆が来ていた。発表についてはいくつか質問や論点をフィードバックしていただけて、有意義だったと思う。

発表されている口頭やポスターの数も大変多かったが、神経科学最大の学会ということもあり、学びが大きくかなり充実した。特に自分の分野（Songbird）の研究についての情報収集や議論、同分野の研究者との交流などができた。

他にも技術動向について企業ブースを回ったり、全く異なる分野の基調講演に出席した。神経科学という分野は裾野が広いため、ひとつ分野が違くと全く知らない話もあり、刺激的だった。

宿泊は同系の隣の研究室（四本研）の同期の学生と同じ宿に泊まったが、毎晩のようにおこなわれたお互いの意見の交換も非常に良かった。どんな発表が面白かったとか、お互いの研究室の雰囲気とか、どういう研究をしたらいいのか、といったような話をしていた。